

トマトハウス内におけるシルバーリーフコナジラミ調査のためのトラップ設置高さ

トマトのシルバーリーフコナジラミ成虫の発生活長調査に黄色粘着トラップを利用する場合、トラップの設置高さを変える必要はなく、固定した高さでよい。

農業研究センター生産環境研究所 (担当者: 古家 忠)

研究のねらい

トマト黄化葉巻ウイルスTYLCVを媒介するシルバーリーフコナジラミ成虫の発生活長調査には、黄色粘着トラップが広く利用されている。オンシツコナジラミでは、トマト草冠部付近にトラップを設置しなければならないが、この方法は、トマトの生育に応じてトラップの設置高さを変えなければならない、調査がやや煩雑である。一方、シルバーリーフコナジラミでは、トラップの適切な設置位置については不明である。そこで、連棟ハウスの谷下に異なる高さの黄色粘着トラップを設置し、適切な設置位置を解明する。

研究の成果

1. 連棟ハウスの谷下支柱に設置した50、100、150cm高さの黄色粘着トラップへのシルバーリーフコナジラミ成虫の誘殺消長は、いずれの高さのトラップもトマト株上のシルバーリーフコナジラミの発生活長と同様の傾向を示した (図1)。
2. 黄色粘着トラップへのシルバーリーフコナジラミ成虫の誘殺数は、トラップの設置高さ間で有意な差がみられることはほとんどない (図1)。

普及上の留意点

1. 連棟ハウスにおける黄色粘着トラップの設置は、谷下の支柱を利用すると管理作業の邪魔にならず、また、設置回収作業も省力的である。
2. オンシツコナジラミが発生しているトマト栽培ハウスでは、トラップはトマト草冠部付近に設置する。
3. 本試験ほ場で発生していたコナジラミは、タバココナジラミ (バイオタイプQ) であった可能性もある。

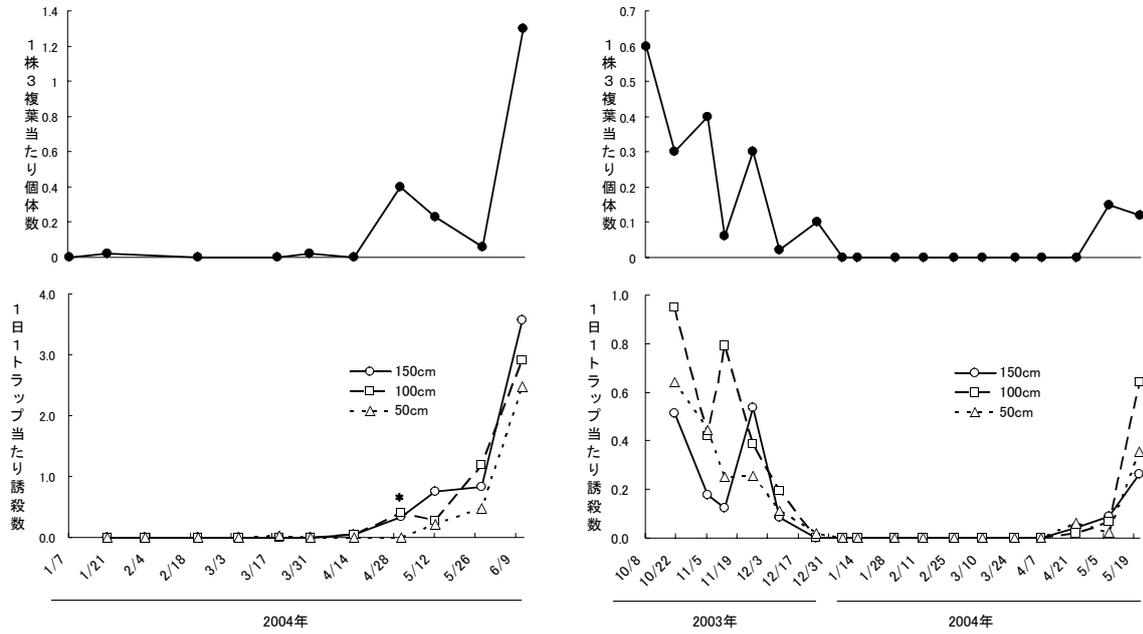


図1 トマト栽培ハウスにおけるシルバーリーフコナジラミ成虫の発生消長および異なる高さに設置した黄色粘着トラップでの誘殺消長

左：熊本市海路口町（2003年12月下旬定植）、右：八代市場町（2003年9月上旬定植）

上段：トマトでの成虫密度、下段：トラップでの誘殺数

図中の*は、トラップの高さ間で誘殺数に有意差あり（誘殺数+0.5を対数変換後に一元配置分散分析、 $p < 0.05$ ）